

# よしお 今井愛郎と語るう会 活動レポート



発行年月日 平成23年2月27日  
 発行 今井愛郎と語るう会  
 連絡先 諏訪市高島3-1346-5 TEL.0266-58-2500 FAX.0266-58-2580  
 印刷所 タカシマ印刷 諏訪市湖岸通り5-17-4 TEL. 0266-58-1088

Vol.9

## 諏訪市の現状を考える

### 十年後の諏訪市の人口はどうなるか？

過日、平成22年10月に実施された国勢調査の速報値が発表されました。

諏訪市の速報値は表のように人口5万1211人(2万502世帯)でした。

10年前(平成12年)の調査結果が、人口5万3858人(2万670世帯)でしたから、この10年間で人口は2647人減(4.91%)、世帯数は168世帯減(0.81%)です。

この先10年間もこのペースで人口減少が続くと仮定すると、10年後の諏訪市の人口は5万1211人×95.09%約4万8697人となり、あと10年しないうちに諏訪市の人口が5万人を割り込む(市から町への降格はありません)という事が現実味をおびてきました。

また世帯数の減少率以上に人口減少率が高いのは若年層が市外へ流出しているからではないかとも推測されます。

諏訪地方統計要覧によれば、諏訪市の平成12年の出生数が631人だったのに対し、平成21年は470人でこの10年間で出生数が161人も減っており、平成21年の自然動態はマイナス(出生より死亡の方が多くなる)に転

じてしまいました。日本全体が人口減少期に入っている中で、諏訪市だけがその例外になると言う事はとても難しい事

かもしれません。人口減少の速度を緩やかにすることは出来るのではないかと思います。

『少子化対策は国で』とか『子育て支援にお金をかけるのではなく高齢者福祉を充実すべき』と言う声を頂きますが、

『高齢者が安心して暮らさるまちづくり』には、何よりも若い力が必要だと思えます。

幾度となく参加させて頂いた市長と語る夕べで、『雪かき』・『側の泥上げ』といった従来は地域で対応してきたことも、『高齢化で対応できないので何とか市で対応してくれないか』とか、独居老人世帯が増え、民生委員が大変と言った声を頂戴しましたが、これは作業の担い手である若者が地域や家庭から流出してしまった事が最も大きな要因ではないかと思えます。

子育て環境の整備や、働く場所の確保を通じて若者が住みやすいまちをつくることは、まわりまわって、おとしよりも安心して暮らせるまちになるのではないかと思います。

過去3回の国勢調査結果と人口動態

項目	単位	12年	17年	22年※
人口	人	53,858	53,240	51,211
世帯数	戸	20,670	20,796	20,502
1世帯人口	人	2.61	2.56	2.50
自然動態	人	217	33	▲14※
社会動態	人	57	▲397	▲783※

※ H22年の国勢調査値は速報値、自然・社会動態の人数は21年の数値を使用  
 自然動態とは出生-死亡で、社会動態とは転入-転出 ▲はマイナス

過日ある方(70代女性)が、一人暮らしをしているので、子供の声を聞くだけでも元気になるとおっしゃっていました。

急激な人口増は無理でも、子供の声が絶えないようなまちづくりが必用ではないかと思えます・・・

ブログ更新中!!

今井愛郎 検索



携帯からアクセス  
 私の活動と議会報告等をブログで公開しています。パソコンからご覧になるには、「諏訪市議会議員今井愛郎」で検索してください。  
<http://blog.livedoor.jp/yoshio1020/>

### よしお 今井愛郎プロフィール

- 現在の役職 諏訪市議会市民クラブ代表 議会運営委員会委員長 社会文教委員  
 諏訪市立上諏訪中学校同窓会副会長 諏訪市交通安全会連合会副会長  
 湖明館通り商業協同組合理事 諏訪TMO運営委員 等
- 略 歴 41歳(S44年10月20日生)昭和57年高島小学校卒、昭和60年上諏訪中学校卒、昭和63年岡谷南高等学校卒、平成4年専修大学商学部会計学科卒業、平成8年5月に(株)かのやを継承し同年結婚。妻・長女・次女・長男・実母の6人で市内上諏訪桜ヶ丘に在住。趣味は、ゴルフのほかスポーツ観戦全般(特に中学～大学時代まで選手として活躍していたサッカー観戦を好む)。





# 今井愛郎 二期目の議員活動を振り返る

よしお

(前号からの続き)

平成二十一年六月 一般質問要旨

## 観光産業における雇用と 観光振興策について

問、製造業からの求人が著しく減少する中で、ある程度安定した求人が見込める観光業特に宿泊業に期待する事は？

答、観光業には安定した雇用もさることながら小売・サービス業等への波及効果を期待している。緊急雇用対策の一環で「ふるさと雇用再生特別基金」を活用し、旅館組合に依託事業三年間の継続事業で六百三十万円／一年・うち人件費が五百万円余を行ったが、国の示した依託基準三年後の継続雇用等に合致しているか？



問、新たな観光事業者(観光協会の法人化等)を形成する事などで、国の依託基準はクリアーできる。観光事業者が新たな雇用を創出してくれるよう期待している。

問、観光産業雇用を維持していくためには振興策等も必要だと思いが、霧ヶ峰で、ニッコウキスゲの芽を食べると言われている鹿対策は？

答、昨年も近隣市町村と協力して三十数頭の駆除をしたが、霧ヶ峰周辺は禁猟区域でもあり中々駆除が進まない。まずは罠での捕獲を試みるが、大々的な駆除の必要性を感じている。

問、昨年の台湾に続き十月に市長が上海へ海外誘客に行くとのことだが、訪問・宣伝ばかりではなく具体的な施策市内小中学校との交流等が必要ではないか？

答、なかなか交流は難しい。まずは諏訪を知っていただく事だと思ふ。

問、観光振興と言うと観光協会に依託している宣伝費が中心だか、諏訪を訪れた観光客への直接的な補助に比重を移すべきではないか？

答、今後「ズーラ」のような体験型プログラムへの補助充実や他の直接的な補助も検討してみたいが、今年には御柱祭りの宣伝事業を中心に行いたい。

平成二十一年九月 一般質問要旨

## 花火大会の総括と、原田泰治美術館への 指定管理者制度導入について

問、花火大会の総括を。

答、トイレの使用不能・駐車場問題・雑踏警備等、課題もあるが、花火大会としては、かなり完成度が高まっていると思う。

問、駐車場待ち・路上駐車等の車両対策は？

答、駐車場の有料化も方策の一つだが、根本的な解決策になるかは不明である。有料化・広域連携を含め、引き続き最善策を検討したい。

問、雑踏警備への消防団員の配置については？

答、団員の本来業務ではない事を、重々承知しているが、団員の協力なしに花火大会は運営できないので、今後とも出動をお願いして行きたい。

問、原田泰治美術館への指定管理者制度導入の目的は？

答、平成十年の開館時は十三万人前後の入館者があったが、現在は六万人余。入館料で施設維持費が賄えなくなってきた中で、税金からの繰出しを少なくする為にも、民力の活用を期待して同制度の導入に踏み切った。

問、問い合わせ状況は？

答、説明会には県内外から八社の参加があった。

問、利用料金制(入場料を市に繰り入れず管理者の売上とする方法)を導入した場合の損失補填の考えは？

答、災害等で開館が出来ない場合を除き損失補填はしない。また契約は長期間になるが、管理料については毎年の見直しを行う。

問、今後、市内他施設への指定管理者制度導入の予定は？

答、現在のところ、霧ヶ峰リフト以外への同制度の導入は考えていない。



平成二十一年十二月 一般質問要旨

## 多様化する保育ニーズと保育行政について

## 『広域連携』と『合併』について

問、従前と保育園への『車両送迎』に対する見解は変わらないか？

答、今でも心情的には『徒歩で』と思っているが、実情として『車両送迎』が多く『安心安全の観点』から、駐車場整備の必要性を感じている。

問、園舎のような木造建築物に対する『耐震』への考え方は？

答、二Fが軽量の木造園舎は比較的安心と思っていたが、耐震性には地盤・基礎等も大きく影響するとの事から、今年度、耐震診断を行っており、今はその結果待ち。

問、男性保育士の雇用については？

答、保育士・保護者から要望があるのは充分承知しているが、男性である事を理由に合格レベルに達していない者を採用する訳には行かない。

問、角間新田保育園への来年度入園予定者数は？

答、来年度の入園予定者は四名で、在園児総数は十一名になる見込み。

問、角間川と角間新田保育園の統合のお考えは？

答、数年前に山の神保育園を休園にした経緯もあるので、まずは地元の意見を尊重して検討したい。

問、耐震診断結果によっては建替え等の可能性があるのならば、市内への適正配置・民間委託等、保育行政を総合的に協議する検討会を設置すべきではないか？

答、諏訪市内の新生児数が大きく減少するのは五〜七年後。今は耐震状況・人口動向等の検討資料を収集している段階。資料等が揃ったところで、市民への開示を行い、検討会の設置等をして行きたい。

問、3月末で平成の大合併がひと段落するが率直な感想は？

答、諏訪圏で合併が進まなかったのは残念だったが、次の合併論議は具体的な目的がなければ難しいと思う。当面は広域連携を強化したい。

問、産業界における広域連携は？

答、圏域内で工場等の移動があるのは事実だが、工業メッセ・NPO諏訪圏ものづくり機構等を通じた連携を進めている。

問、広域医療連携は？

答、電子カルテ・小児夜間救急・衛生電話等に取組んできたが、医療連携については県が主導権をもっており、県が青写真を描くべき事だと思ふ。

問、諏訪圏域市町村が所有する社会施設等を維持する為の広域連携は？

答、過去に理科大建設資金を拠出したことがあるが、基本的に他の市町村の施設に金銭的な支援をする事は難しい。

問、広域連携としてリニアが取り上げられているが市内の事業優先順位は？

答、諏訪市内では二〇号バイパス→JR高架の順とされている。リニアは突然の話であり、ルートは県が決定する事と思っているが、過去の経緯からBルートを支持したい。またリニア建設の金銭的な負担についてはルート決定後に考えれば良いのではないかと考える。

問、広域連携を進めたくとも『合併を推進しなかった諏訪市長がいる間は連携が進まない』と言う声を聞くが？

答、そんな声は初めて聞いた。いずれにせよこれからも広域連携を強化していきたい。

